

丹野 正 先生の退職にあたって

大学院地域社会研究科の構想・展開・発展の功労者

佐 藤 三 三*

地域社会研究科は、課題探求能力、広い視野と総合的な判断力そして実践能力を備え、地域社会の活性化や政策研究に実践的に関わる高度専門職業人の養成を目指して2002年度に設置されましたが、その準備、構想から文部科学省との折衝はもとより、初代・地域社会研究科長として6年間をつとめ、まさに新生地域社会研究科の最大の功労者といつていい役割を果たしてこられました。

本研究科は後期3年博士課程の独立研究科ですので、定員を確保できるかどうか心配な面もありましたが、表のように、平成15、22年度を除いて、入学定員6名を確保しています。

●入学者数（定員6名）

年度	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
人数	14	5	9	7	10	6	6	7	5	8

社会人が中心ですが、大学教員、会社役員、義務教育学校教員、県職員、留学生等、実に多彩です。年齢でもこれまでの入学者を見ますと70代＝3人、60代＝5人、50代＝16人、40代＝27人、30代＝17人、20代＝2人と多様です。東京在住者＝2名。神奈川県＝1名。岩手県＝2名、北海道＝2名もいます。さらに学位を取得された方も20人に及びます。その内容は表に見るように実に多方面に及んでいます。それもこれもすべて丹野先生のご努力の結果です。

●学位論文名一覧

月 日	博士(学術)	論 文 題 目
17.3.23	地博第1号	「ナーシング・リスクマネジメント」の現状分析を通じた「看護倫理」の役割に関する研究
17.3.23	地博第2号	看護者の倫理的感受性育成に関する研究
17.3.23	地博第3号	農業地域における自然環境管理の研究
17.9.30	地博第4号	少子高齢化社会のホスピスに関する研究
18.3.23	地博第5号	青森県の転作水田におけるアピオスの展開に関する研究
18.3.23	地博第6号	地域振興策としての整備新幹線構想が持つ問題点と可能性
18.9.29	地博第7号	高齢社会移行期における中国の高齢者教育の現状と課題
19.3.23	地博第8号	日本近世国家と蝦夷地アイヌ社会の関係秩序
19.3.23	地博第9号	近世・近代における鉱山と周辺地域に関する研究
19.9.28	地博第10号	俳句の地域性と国際化—台湾俳壇を中心に—
20.3.21	地博第11号	社会教育における「婦人教育」の衰退とその要因
21.3.24	地博第12号	養護教諭の慢性疾患の子どもへの支援に関する研究
21.9.30	地博第13号	地方社会における一次産品を中心とした地域ブランドの形成手法に関する研究
21.9.30	地博第14号	地域経済・社会開発への人材育成システム：ローウェルの復活
21.9.30	地博第15号	要支援親子への支援の「つなぎめをつなぐ」保健師の活動に関する研究
22.3.24	地博第16号	リンゴ搾汁残渣の新規用途開発に関する研究
23.3.23	地博第17号	土木リテラシー促進に寄与する広報媒体活用に関する研究
23.3.23	地博第18号	道徳性を育むための「形成」過程の創造と道徳の時間の位置づけに関する研究
20.3.21	地第1号(論文)	『岩手県経済の定性的・定量的研究：地方自治体の地域産業政策の展開』
23.3.23	地第2号(論文)	「介護実習」をめぐる学校と施設の協働関係の構築に関する研究

丹野先生は、実に博学のお方です。そして話術のとっても巧みな方でもあります。とつとつと丁寧にかつ論理的に話されるそのお話に、いつも引き込まれていきます。とくに経験豊富な社会調査の話は圧巻です。私にとって、丹野先生が中心になってはじめられた地域社会研究科の下北調査は、そんな丹野先生に接する楽しい時間でもありました。丹野先生！ありがとうございました！

* 第二代・地域社会研究科長